

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( あんず )	ユニット名( かりん )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援と個人の尊厳を尊重する観点から、「目配り、気配り、心配り」に留意した、心に寄り添う介護を実践している。	自立支援と個人の尊厳を尊重する観点から、「目配り、気配り、心配り」に留意した、心に寄り添う介護を実践している。	理念は事務所に提示してある。簡単そうでなかなか難しい「目配り・気配り・心配り」を理念として常に振り返り、日々の業務を遂行している。理念を忘れていたような時は随時投げかけを行ない職員同士・意思の疎通を図りながらより良いケアを目指し、ゆとりを持ち利用者の心に寄り添うケアを実践している。	家族や外部からの訪問者にも当事業所は「目配り・気配り・心配り」の理念があり、職員は皆その理念に沿って温かな心で入居者を支え、心に寄り添う介護を大切にして関わってくれていると言うことを理解してもらうためにも「玄関や居間に続く廊下等への理念の提示を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に入り、回覧板等を通じて、地域との情報交換を行っている。又地域行事への参加を積極的に検討し参加している。	地域の自治会に入り、回覧板等を通じて、地域との情報交換を行っている。又地域行事への参加を積極的に検討し参加している。	自治会に入会しており、回覧板は利用者と一緒に届けている。月1回の保育園児、学校行事として高校生や中学生が来訪して交流が持っている。また地域の交流は文化祭の作品を出展し公民館に見に出掛けたり、地域の催し物に参加し、買い物や散歩時に声を掛けてもらったりと、少しでも多くの交流が持てるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域行事に参加したり、地域住民が気軽に参加していただけるイベント(夏祭り等)を開催し、地域交流の中で貢献している。	積極的に地域行事に参加したり、地域住民が気軽に参加していただけるイベント(夏祭り等)を開催し、地域交流の中で貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っている運営推進会議でいただいた意見及び課題と評価を施設内でも分析し、利用者へのサービス向上に努めている。	定期的に行っている運営推進会議でいただいた意見及び課題と評価を施設内でも分析し、利用者へのサービス向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回、第3水曜日の14時から開催。地域包括・自治会・家族は交代で参加・施設の管理者・総括主任・ユニットリーダーが参加して利用者の現状報告や行事の報告等を行ない、参加者からの意見をいただいている。「職員の顔が良く分からないので写真を貼ってほしい」との要望に早速廊下に写真を貼った。避難訓練も同時に開催した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	適宜、保険者とコミュニケーションを図り、協力体制を築いている。	適宜、保険者とコミュニケーションを図り、協力体制を築いている。	事業所から市に向くことはないが、稀に市役所の方から入居者の話等がある。運営推進会議が終わった後に地域包括の方との話し合いも行なっていて、ヒヤリハットの報告から改善方法のアドバイスを受ける等、連携体制は密に出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	規定等に「身体拘束をしない」旨を明記し、やむを得ず行動制限等をした場合には、その理由・経過について、記録を残し、「身体拘束をしない支援」に職員全員で取り組んでいる。	規定等に「身体拘束をしない」旨を明記し、やむを得ず行動制限等をした場合には、その理由・経過について、記録を残し、「身体拘束をしない支援」に職員全員で取り組んでいる。	「身体拘束は行わない」と決めて毎回のスタッフ会議で徹底し見守りを強化して支援している。ベッドからの転落の危険性がある利用者には、ベッドを一番下迄下げ横に布団を敷いたり、鈴を付けセンサーを設置して対応している。日常生活の中でスピーチロック等の身体拘束に繋がる場合は管理者が対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内通信及び研修に参加する事で学ぶ機会を持ち、常に複数の職員が関わることで互いに確認し合ったり、入浴時に全身観察をするなど、虐待防止を徹底するよう職員全員で取り組んでいる。	社内通信及び研修に参加する事で学ぶ機会を持ち、常に複数の職員が関わることで互いに確認し合ったり、入浴時に全身観察をするなど、虐待防止を徹底するよう職員全員で取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネージャーを中心として、研修参加他必要に応じて関係者と話し合い、権利擁護を全職員で理解し、活用時は支援に努めている。	ケアマネージャーを中心として、研修参加他必要に応じて関係者と話し合い、権利擁護を全職員で理解し、活用時は支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて話し、質問を促したりして、契約内容についての理解、納得を図っている。	契約時は時間をかけて話し、質問を促したりして、契約内容についての理解、納得を図っている。		

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( あんず )	ユニット名( かりん )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時など、家族等の意見や要望を聞く機会を設け、随時施設運営や利用者処遇に反映している。	運営推進会議や面会時など、家族等の意見や要望を聞く機会を設け、随時施設運営や利用者処遇に反映している。	利用者等は普段からコミュニケーションを図り日課に反映するように努め、家族の面会時に意図的に声掛けをして、話しやすい雰囲気作り心掛けている。家族からの希望で看護師が痰吸引を行なった。「面会者にやきもちをやく入居者がいる」件には面会時間を30分早めてもらう等、家族の協力をいただいたケースも有る。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「職員連絡ノート」への自由記載による他、ケーススタッフ会議時や、個人的意見や相談などは随時行っている。	「職員連絡ノート」への自由記載による他、ケーススタッフ会議時や、個人的意見や相談などは随時行っている。	「自由記載ノート」に提案事項が記載されて、提案事項は1～2週間に1回実施しているスタッフ会議で検討し実行している。内容は、書面や連絡ノートで職員全員に周知している。文化祭への出品作品や展示作品も職員が提案して作成している。今年には宮司さんに魂を入れてもらった作品「神輿」が全国コンクールで賞をもらった。また毎年職員と管理者との面談が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境構築を第一に、職員の勤務状況及び日々努力等を把握しつつ、安心して働ける規則作り等、職員のやりがいにつなげるよう、制度改革に着手している。	働きやすい職場環境構築を第一に、職員の勤務状況及び日々努力等を把握しつつ、安心して働ける規則作り等、職員のやりがいにつなげるよう、制度改革に着手している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を随時提供すると同時に、施設内においても指導的スタッフが先頭になり働きながら学習できる機会を持っている。	研修を受ける機会を随時提供すると同時に、施設内においても指導的スタッフが先頭になり働きながら学習できる機会を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山梨県グループホーム協会に加盟し、協会主催の見学会や勉強会に参加する等、同業者と交流する機会づくりに努めている。	山梨県グループホーム協会に加盟し、協会主催の見学会や勉強会に参加する等、同業者と交流する機会づくりに努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人の人生の来歴を把握及び理解した上で、本人の現在置かれている状況を、本人の立場に立って勘定することで、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者本人の人生の来歴を把握及び理解した上で、本人の現在置かれている状況を、本人の立場に立って勘定することで、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時に家族と話をする機会を設け、意向や困り事を把握し、互いの信頼関係を作っていくながらサービス導入している。	入所前や入所時に家族と話をする機会を設け、意向や困り事を把握し、互いの信頼関係を作っていくながらサービス導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と密に連携をしていくことで、その都度ニーズを的確に見極め対応をしている。	本人や家族と密に連携をしていくことで、その都度ニーズを的確に見極め対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のペースに合わせた支援を実施し、日常生活においても一緒に行う機会を提供している。	利用者のペースに合わせた支援を実施し、日常生活においても一緒に行う機会を提供している。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( あんず )	ユニット名( かりん )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	定期的な連絡のやり取りをするほか、面会をしやす い環境を整えるなど支援をしている。また、外出な ども自由に行えるようにしている。	定期的な連絡のやり取りをするほか、面会をしやす い環境を整えるなど支援をしている。また、外出な ども自由に行えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望に沿って、ご自宅に行く事もあり、ポ ストを覗いたり、庭の草取りをしたり、通りかかった ご近所の方とお話をされたりしている。	ご本人の希望に沿って、ご自宅に行く事もあり、ポ ストを覗いたり、庭の草取りをしたり、通りかかった ご近所の方とお話をされたりしている。	踊り仲間・親戚・兄弟の面会や手紙が届く利用者もい る。日常の買い物は馴染みのお店を利用したり、家族と 馴染みの美容院に出掛けて食事をしたりコーヒー店に行 く等、地域の方との馴染みの関係の継続が続く様な支援 を日頃から行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	普段様子観察から、リビングの席決めに配慮した り、利用者の間に職員が入ったりして、利用者同士 の関係性を築ける様支援している。	普段様子観察から、リビングの席決めに配慮した り、利用者の間に職員が入ったりして、利用者同士 の関係性を築ける様支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用いただいた皆様から、謝礼と合わせて差し入 れを持ってホームに寄ってくださり、思い出話を職 員とされたり良い関係性を継続するよう努めてい る。また、入院時には、医療関係者と情報提供しな がら、ご家族の相談に応じている。	利用いただいた皆様から、謝礼と合わせて差し入 れを持ってホームに寄ってくださり、思い出話を職 員とされたり良い関係性を継続するよう努めてい る。また、入院時には、医療関係者と情報提供しな がら、ご家族の相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	スタッフは個別に、その方の想いや希望を把握し、 ケアスタッフ会議時に情報を共有し、プランニン グし、実践している。	スタッフは個別に、その方の想いや希望を把握し、 ケアスタッフ会議時に情報を共有し、プランニン グし、実践している。	入居前の情報からある程度は把握はしているが、個々 の思いや希望は日々の生活の中での様子や発する言 葉から思いを汲み取る様に努めている。希望が言えない 利用者でも、反応や表情からどんな些細な事でも見逃さ ないという目配りで本人本位のケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	インテーク時や随時の面会、本人との日常会話の 中でも情報を得て反映するよう努め、その情報をス タッフの中で共有している。	インテーク時や随時の面会、本人との日常会話の 中でも情報を得て反映するよう努め、その情報をス タッフの中で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	本人の生活パターンや嗜好、ADL等の情報を収集 し共有している。	本人の生活パターンや嗜好、ADL等の情報を収集 し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	担当制により、課題やケアのあり方を、スタッフケア 会議時に意見を出し、チームスタッフ、家族等の意 見をまともながら計画を作成している。	担当制により、課題やケアのあり方を、スタッフケア 会議時に意見を出し、チームスタッフ、家族等の意 見をまともながら計画を作成している。	入居時に情報収集を行い、入居後1か月位をめどに チームでカンファレンスを行ない、暫定プランを作成し、 その後1~2か月の間での実践の記録から本プランを作 成し、1か月ごとにモニタリングを行ない実情に合った計 画を確認、また状況に変化がある場合はその都度計画 の見直しを検討して実情に合った計画を作成し、本人の 力を活かせる計画に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の記録を残し、職員が共有 することにより、統一された支援や、介護計画の見 直しに活かしている。	個別の介護記録に日々の記録を残し、職員が共有 することにより、統一された支援や、介護計画の見 直しに活かしている。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	グループホームぽぷら	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]		
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( あんず )	ユニット名( かりん )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診時に、職員が付き添い、身体状況をDr.に伝えたり、家族のみの受診の際は、直近1ヶ月のバイタルや、身体状態などを記録し、ご家族にお渡しし、受診に役立てていただいている。	病院受診時に、職員が付き添い、身体状況をDr.に伝えたり、家族のみの受診の際は、直近1ヶ月のバイタルや、身体状態などを記録し、ご家族にお渡しし、受診に役立てていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に、各ボランティア団体と交流ができていて、楽しみの1つとなっている。地域行事の参加も積極的に行っている。	日常的に、各ボランティア団体と交流ができていて、楽しみの1つとなっている。地域行事の参加も積極的に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が主治医を選択している。施設としては選択した病院と連携を取りながら関係構築を随時図っている。	本人、家族が主治医を選択している。施設としては選択した病院と連携を取りながら関係構築を随時図っている。	入居前からのかかりつけ医を受診されている利用者4名は基本は家族対応となっている。受診時は記録書を家族に渡し、結果報告を家族・医師から受けている。薬は全入居者が同一の薬局で処方を受けている。体調不良時はケアマネジャーが同行する場合や往診も可能で家族と相談しながら対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者の身体状況の情報を伝え、日頃から相談することにより、適切なケアを行うよう努めている。	看護師に利用者の身体状況の情報を伝え、日頃から相談することにより、適切なケアを行うよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合、定期的に病院担当者と連絡及び情報交換を行い、退院後も安心して生活できるように病院関係者との綿密なコミュニケーションを図っている。	利用者が入院した場合、定期的に病院担当者と連絡及び情報交換を行い、退院後も安心して生活できるように病院関係者との綿密なコミュニケーションを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、現状で可能な限り、事業所として対応支援することを契約時に確実に話している。	重度化した場合については、現状で可能な限り、事業所として対応支援することを契約時に確実に話している。	看取りについては入居時に家族に説明している。近隣のクリニックと常に連絡が取れるようになっていてマニュアルも作成してある。体調が変化した場合は往診を受け、状況に応じ家族と相談・病院搬送等の検討も行なっている。今まで2名の看取りを行なっている。また職員が安心して看取りの支援ができる研修やアドバイス体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時及び事故発生時の対応は基本的マニュアルに沿って行うよう努めている。また、全職員は応急手当及び初期対応の訓練を定期的に行い、どんな状況でも対応可能となるよう実践力を身に付けることに努めている。	緊急時及び事故発生時の対応は基本的マニュアルに沿って行うよう努めている。また、全職員は応急手当及び初期対応の訓練を定期的に行い、どんな状況でも対応可能となるよう実践力を身に付けることに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を夜勤時を想定して行っている。また、地域の方との協力体制については、民生委員及び自治会長の方々とは現在考案している。	避難訓練を夜勤時を想定して行っている。また、地域の方との協力体制については、民生委員及び自治会長の方々とは現在考案している。	消防署からの支援を受け、デイサービスセンターと一緒に年2回避難訓練を行なっている。その他夜間やいろんな場面を想定しての訓練やシミュレーションを毎月独自に行なっている。ペランダが第一避難場所となってマニュアルも作成されている。水害の心配は無い。富士山の噴火対策を消防や自治体との検討を考えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人生の来歴や人格を把握、尊重し、言葉使い及びプライバシー他尊厳に配慮するよう努めている。	利用者一人ひとりの人生の来歴や人格を把握、尊重し、言葉使い及びプライバシー他尊厳に配慮するよう努めている。	普段の生活の中で利用者が生きてきた中での言葉を理解しながら優しい言葉掛けで支援している。自分がされて嫌なことは絶対しない。介護をしてやっているとなく、利用者を受容し寄り添いながら人権を無視しない支援を職員間で共有し対応している。	



自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( あんず )	ユニット名( かりん )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にコミュニケーションを図り、利用者の希望を聞くように心掛け、想いを受け止めながら、実現可能にするために、スタッフ間でも話し合っている。	常にコミュニケーションを図り、利用者の希望を聞くように心掛け、想いを受け止めながら、実現可能にするために、スタッフ間でも話し合う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心の支援を心掛け、その人らしい生活ができるよう、施設や職員側の都合を押し付けないように配慮している。	利用者中心の支援を心掛け、その人らしい生活ができるよう、施設や職員側の都合を押し付けないように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、身だしなみを整えたり、髪にカラーを巻いたり、毛染めや、顔のムダ毛剃りなど、日々支援している。	一緒に洋服を選んだり、身だしなみを整えたり、髪にカラーを巻いたり、毛染めや、顔のムダ毛剃りなど、日々支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付け等は、利用者の意欲と能力に応じ役割分担して、できるだけ皆の力を合わせて行うよう努めている。	食事作りや後片付け等は、利用者の意欲と能力に応じ役割分担して、できるだけ皆の力を合わせて行うよう努めている。	食事専門のスタッフが1名配置されているが、入居者が準備から後片付け迄関わっており、みそ汁を作る利用者、食器を洗う・濯ぐ・拭くを3人の入居者がそれを分担して役割を夢中で行っている姿は家庭的な雰囲気を感じられた。誕生日には1人1人の希望に沿って職員が付き添って外食に出掛ける楽しみもある。	入居者個々の力を活かしながら職員と共に協力して一連の作業した食事は、利用者と共に一緒にの食卓をかこんで同じものを楽しみ食べる事が大切です。食事時職員と楽しく美味しく食事ができる事も一日の大切な活動の一つと思われます。全員とは言えませんが利用者と同席して食べる事を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量及び水分量など、個々の課題を職員間で共有し、個別に嗜好品を取り入れたり、とろみ剤や形態の見直し、介助方法の工夫をしながら、経口摂取が継続できるよう支援している。	食事量及び水分量など、個々の課題を職員間で共有し、個別に嗜好品を取り入れたり、とろみ剤や形態の見直し、介助方法の工夫をしながら、経口摂取が継続できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、自分で洗える人は洗ってもらい、その後職員がチェック後、必要に応じて仕上げ洗いを行っている。	毎食後口腔ケアを行い、自分で洗える人は洗ってもらい、その後職員がチェック後、必要に応じて仕上げ洗いを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を参考に、利用者の生活リズムに配慮した誘導等を行い、なるべく自立排尿、排便ができるよう支援している。	排泄記録を参考に、利用者の生活リズムに配慮した誘導等を行い、なるべく自立排尿、排便ができるよう支援している。	各フロアにトイレが3か所あり、内2か所は車椅子対応である。18名中17名がリハビリパンツ使用で内8名は昼夜を問わず自立。夜間ポータブルトイレ使用者は2名、それ以外の入居者は時間で誘導をしながら自立に向け取り組んでいる。排便コントロールは難しく牛乳を飲む・食材を考える・下剤の調整・体を動かす等必要に応じた支援を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	今まで朝飲んでいただいていた牛乳を飲むヨーグルトに変え、体操も取り入れ、便秘の改善に努めている。個々によっては、内服薬の見直しもしている。	今まで朝飲んでいただいていた牛乳を飲むヨーグルトに変え、体操も取り入れ、便秘の改善に努めている。個々によっては、内服薬の見直しもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り利用者の希望に沿った入浴を心掛けているが、利用者の身体状況や職員の配置状況により、入浴時間を施設例で決める場合がある。	できる限り利用者の希望に沿った入浴を心掛けているが、利用者の身体状況や職員の配置状況により、入浴時間を施設例で決める場合がある。	各ユニットに浴室がある。基本は週2回入浴。月から土曜まで朝10時から6時の間で職員の人数の多い時間帯に3人ずつゆっくりと入浴実施している。各浴室にはリフト浴が設置されていて身体的に困難な方も安心して入浴が出来る様な環境が整っている。また隣接するデイサービスの大浴室に行く等実施している。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名( あんず )	ユニット名( かりん )	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが、各利用者の個室については自由であり、各人の生活状況に応じてその人の生活リズムの中で気持ちよく眠れるよう支援している。	消灯時間は決まっているが、各利用者の個室については自由であり、各人の生活状況に応じてその人の生活リズムの中で気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況及び症状の変化を把握し、主治医や家族などに随時報告している。	服薬状況及び症状の変化を把握し、主治医や家族などに随時報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日楽しく、充実感を持って暮らせるよう、各人に何らかの役割をもっていただいたり、趣味として好んでいる事に取り組んでいただくよう配慮している。	毎日楽しく、充実感を持って暮らせるよう、各人に何らかの役割をもっていただいたり、趣味として好んでいる事に取り組んでいただくよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出など、日常的に行っているが、その方の誕生日には、1対1で本人の食べたい物を聞き、外出に出掛けている。	散歩や外出など、日常的に行っているが、その方の誕生日には、1対1で本人の食べたい物を聞き、外出に出掛けている。	日常の買いもの以外に、商店のポイント感謝デーの日に数人づつ一緒に出掛け、ポイントで入居者の好きな物を買って来る等楽しみと気分転換を図っている。また回転ずし、コーヒーショップ、高級ずし店に家族や職員と行くこともある。入居者の希望が多く叶えられる様に努めたり、また地域の催し物等にも積極的に参加する等外出の機会を多く設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金制度を設け、必要に応じて、職員が同行し、利用者が買いたい物を買いたい時に買えるように支援している。	預り金制度を設け、必要に応じて、職員が同行し、利用者が買いたい物を買いたい時に買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力に応じ、可能な限り、本人の希望があれば、手紙のやり取りや適切に電話がかけられるよう支援している。	能力に応じ、可能な限り、本人の希望があれば、手紙のやり取りや適切に電話がかけられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は吹き抜けになっており、自然の光が差し込み、面積にも余裕がある。高性能空気清浄器も設置され、不快な臭いも無い。快適な居住空間が創出されている。	共用空間は吹き抜けになっており、自然の光が差し込み、面積にも余裕がある。高性能空気清浄器も設置され、不快な臭いも無い。快適な居住空間が創出されている。	玄関から居間の共有空間は広く居間は吹き抜けになっていて明るく開放感がある。事業所全体はテーブルをはじめ木の温もりで一杯である。居間の丸柱は何とも言えない風格が感じられる。床暖・空気清浄機・加湿器3台が設置してあるが、特に感染症予防の観点から居間の天井から加湿タオル18枚掛けられる竿が工夫して設置されて1日4～5回職員が濡らして交換を行なっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、こたつ等、利用者の好みに応じて居場所を選べる様配慮している。	テーブル、ソファ、こたつ等、利用者の好みに応じて居場所を選べる様配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の飾りつけや備品持ち込みは自由であり、利用者がなじみの品や家具を持ち込み、心地よく暮らせるよう支援している。	居室の飾りつけや備品持ち込みは自由であり、利用者がなじみの品や家具を持ち込み、心地よく暮らせるよう支援している。	ベッド・押入れ式収納タンス・防火用カーテン・エアコン付き空気清浄機が備え付けてある。家族写真を所狭しと貼ってある利用者、机や人形を飾っている利用者など、ずっつきりと整理された居心地よく住みやすい居室となっている。入り口には木枠で作られた中に解りやすく名前が書いてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの戸と居室の戸の色分け、居室からトイレの動線、手すりの配置、ベランダから庭へと続く癒し空間の設置等、工夫をこらしている。	トイレの戸と居室の戸の色分け、居室からトイレの動線、手すりの配置、ベランダから庭へと続く癒し空間の設置等、工夫をこらしている。		